

自由民主党所属
西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政・市議会報告



「お役所仕事」のツケ

「場当たりの行政運営、政策・ビジョンなき事業の推進、効果の検証なき事業の実施」という「お役所仕事」。少子高齢社会において、これまでのような場当たりの対応が通用しないことが、いよいよ露呈してきました。あとになって、他人事のようになされる「お役所仕事」のツケを負わされるのは、私たち市民なのです。だからこそ、私は、市に対して、将来ビジョンに基づいた政策推進が必要と訴え続けているのです。

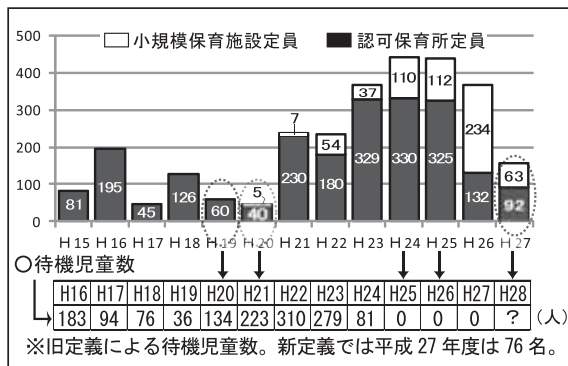
保育所不足

遅すぎる市の対応。保育所に入りたくても入れない児童は1000人超に。

西宮市では、希望する認可保育所に入れない児童（不承諾児童）が、平成27年4月には436名（うち厚生労働省が定義する待機児童は76名）でしたが、平成27年12月1日時点で、1000人を超えるような状況に陥っています。一方で市は、明確な根拠もなく、将来の少子化による需要の減少を漠然と見込み、保育所の新設に消極的になっています。右図のとおり、今年度の整備を激減させ、新年度以降の待機児童を解消できない可能性があります。こうした市政のどこが「子育てするなら西宮」なのでしょう。多くの方から切実なご相談を頂き、私は、平成27年12月議会で、少子化対策、人口減少対策の観点から、いち早く現在の保育所不足問題を取り上げ、本会議で議論しました。（詳細は中面）

今の西宮市政は、将来像を描くどころか、待機児童対策など目先の課題解決すら覚束ない状況に陥り、まさに、今の住民は、「お役所仕事のツケ」を負わされていると言えます。これからも、市民の声をもとに、市に問題提起し、政策を提言してまいります。

■保育所・小規模保育施設の定員の推移



保育所 政策

「子育てするなら西宮」という標語に反して、待機児童の解消すら覚束ない市の対応。市はもっと危機感を持つべきです。

近年、待機の多い0～2歳の子供が入所できる保育ルーム等の小規模保育施設を精力的に整備し、目先の対応を進めてきました。一方で、認可保育所の整備数を抑制したため、今度は、3歳以上の子供の行き先が不足しています。そこで、今回の質問では、

- ① 保育所不足の地域での土地の確保と民間認可保育所の誘致。
- ② 老朽化した公立保育所の民間移管による老朽対策と定員増の促進。
- ③ 私立幼稚園での預かり保育の保護者負担軽減による幼稚園の活用。

- ④ 少子化対策の観点から、兄弟枠を設定し、第2子・3子の保育所入所を保証。

を提言したうえで、市の今後の保育所整備の方向性と待機児童の解消の見込みを問いました。昨年12月の質問には、平成29年度の定員増に向けた新年度新規整備数を200名程度と回答していましたが、今年の2月には、300名に増員され、③も制度化されるなど、私の提言が受け入れられました。今後、少子化対策の観点から、保育所行政の将来ビジョンと適正な受益者負担のあり方について議論してまいります。

教育 環境

なくならない学級崩壊と不登校問題。行政の取り組みの強化と同時に、家庭の教育力の底上げが必要です。

■学級崩壊・不登校対策

これまで、学級崩壊の早期対応のため、
・早期解決を可能とする市独自の人員の配置
・担任となる新任教員や臨時教員の研修の強化
・学級崩壊発生時の補習体制の強化
を提言してきました。そして、平成25年度から学校問題解決支援チームが組織され、対応が強化されました。しかし、今回の質問で、年間300回を超える学校への人員の派遣が実施されてもなお、11月時点で学級崩壊の状況にあるクラスが4校7学級、学級崩壊に陥る恐れがある学級が2校2学級もあることが判明しました。人員増による一層の対応の強化を求めています。

また、公立学校の不登校の現状は右の表のとおりとなっています。市内在住の中学生の約2割の子供が私立の学校に通っており、義務教育である

以上、公立、私立の分け隔てなく、市は現状を把握し対応するべきです。今回の質問では、市の相談事業の実効性に疑問を呈し、学校復帰を目的とした居場所づくりなど、実際に解決に結び付けられる現実的な対応を求めました。

■家庭教育支援の具体化が必要

子供に関する課題の解決には、最終的には家庭での対応が重要となることから、根本的に家庭での教育力の向上を図るべきと考えています。そこで今回は、現在、形骸化している市の家庭教育支援の取り組みを見直すべきであると問題提起しました。今後、家庭教育支援の具体化について調査し、政策提言してまいります。

■不登校児童数・生徒数の推移

(人)

	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
小学生	73	78	76	71	73
中学生	296	350	277	315	271

公園環境

今回は、子供たちを安心して遊ばせられる公園環境を創るために、規制緩和と安全対策、防犯対策について議論しました。

■公園を子供の豊かな情操を養う場に

大半の公園には、子どもの危険なボール遊びなどを規制する看板が設置されています。私は、何をしたら人に迷惑をかけるのか、何をしたら危険なのか、自ら体験したうえで、遊びの中から道徳心を養うことができる、それが公園の役割の一つであると考えています。そこで、今回の質問で、子供のボール遊びに関する規制を撤廃し、フェンスの設置など周辺への安全対策を強化するよう提言しました。今後、市は、看板のあり方を含めて地域等と連携してマナーの啓発を進め、必要なフェンスの設置を検討すると回答しました。

■公園に防犯カメラの設置を

公園は外からの死角となることが多い空間です。犯罪抑止や、深夜のたむろ行為対策のために、管理責任者である市が、防犯カメラを設置すべきであると指摘しました。しかし、市は、防犯カメラの設置を地域任せにする姿勢を頑なに崩しません。平成28年2月に、箕面市では、公園への防犯カメラの設置を進めるとの新聞報道がありました。住宅都市である西宮市も、治安の向上のために、もっと先進的に取り組むべきなのです。これから、現在存在しない市の防犯政策の確立に向け、提言してまいります。

介護予防

今のままでは、10年後に、高齢者の5人に1人が認知症患者に。効果的な認知症予防・重度化予防の取り組みが急務です。

■認知症予防はまだまだこれから

国は、平成27年2月に認知症対策として「新オレンジプラン」を発表し、2012年の認知症患者数を全国で462万人と推定、このまま推移すると2025年には、高齢者の5人に1人の割合となる700万人に達すると推計し、警鐘を鳴らしました。しかし、西宮市は、認知症予防については、具体的な事業展開ができていません。そこで、今回の質問で、国立長寿医療研究センターが開発した「コグニサイズ」や、他市で実施されている「音楽療法」を例に挙げ、認知症予防の取り組みを強化するよう提言しました。これらの手法の導入に向け、市も前向きな姿勢を示しています。

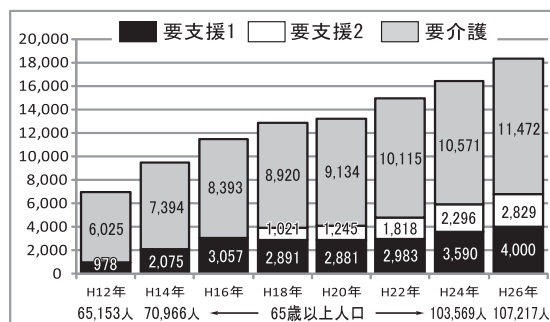
■「いきいき体操」の効果測定を

現在、市は、健康な高齢者を対象にした介護予防事業として、「いきいき体操」の普及を進めてい

ます。しかし、下図のとおり、近年も一向に介護認定者数の割合は減少していません。そこで、事業の効果を検証するよう提言し、市からも、前向きな回答を得ました。

平成29年4月から、市が独自に「介護予防・日常生活総合支援事業」を実施します。今後も、将来を見据えた政策を提言してまいります。

■介護認定者数の推移(各年度末時点)



65歳以上の介護認定を受ける方の割合は、平成24年度15.9%から、平成26年度17.1%と、増加の一途をたどっています。

西宮市の財政は大丈夫なの？

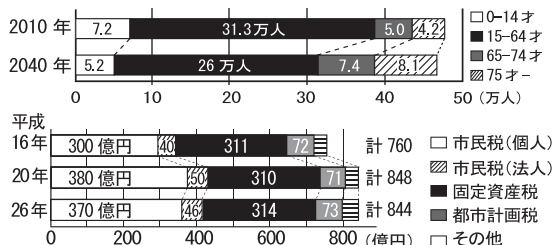
人口は、2040年には、2010年と比較して約3万人減少し、その内、15歳までの人口が約3割、15～75歳までの人口は約2割減少すると推計されています。こうした人口ビジョンに対して、**税収が大幅に減少することが予想されますが、税収に関する長期ビジョンはありません。**

西宮の財政は、これまでの財政改革により、危機的な状況は脱しました。しかし、加速度的に進む高齢化、公共施設の老朽化対策などに要する財源の見通しは立っていないうえに、ビジョンなき大幅な財政出動により、近い将来の財源不足が懸念されます。そして、市は、平成36年度には財源不足に陥るとの予測もしています。

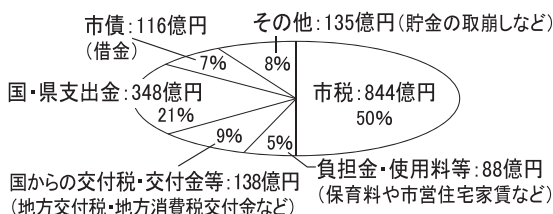
行政ばかりを頼りにし、財政負担を求める政治を続けると、その財政的な負担増を強いられるのは結局、私たち納税者となるのです。だからこそ、

議会は皆様に、真の市政の現状を常に伝える責任があり、皆様とともに考える必要があるのです。ご意見・ご要望をお待ちしております。

■人口推計と市税収入の推移



■一般会計収入の内訳 (平成26年度決算)



約束のかたち:「市政・市議会報告」の発行の継続

過去発行分のチラシも是非ご覧ください！ご連絡頂きましたらお届け致します。



○第43号 「西宮が魅力ある文教住宅都市であり続けるために。」

4期目最初の議会において、西宮の魅力の維持・向上に関する政策提言をしました。
・掲載内容: 少子化対策/スポーツ推進/防犯対策/カラス・猫対策/交通政策など

○第44号 「納めた税金がどのように使われているのか。」

次世代にツケを残すことのないよう、現状を知り、今進めるべき政策を考える。

・掲載内容: 福祉関連経費/交通政策/アセットマネジメント/水道料金の値上げなど

発行責任者
田中正剛 たなか まさたけ
昭和50年7月生まれ/大阪府立四條畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市会議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選 (27歳)
■政党: 自由民主党 ■現在の担当常任委員会: 建設常任委員会 ■市議会での主な役職: 建設常任委員会副委員長 (1期2年目)、厚生常任委員会委員長 (1期3年目)、西宮市監査委員 (2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長 (2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長 (3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員 (3期3年目)、副議長 (3期4年目)

市政報告・意見交換会を随時開催中！

1期目の活動は、ひたすら市役所と向き合って、財政改革、市役所改革に没頭してきました。そして、市政報告の出前を始めて、たどり着いた答えはやはり、「**市民との対話なくして、真の政策なし。**」

3期目からは、より多くの対話の機会をもつために、市政報告兼意見交換会を開催しています。

資料等の準備の都合上、事前のお申込みをお願いしています。日程・会場等の詳細は、田中事務所までお問い合わせ下さい。

